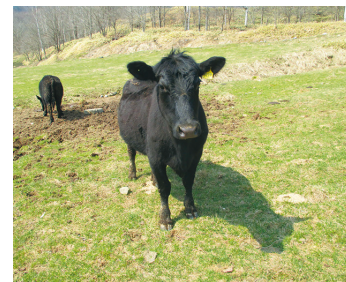


## e-ビーフNEWS 北の牧場から

May 2022

## 十勝の春うらら

朝はまだ一けた前半、日中は20℃超えもあり寒暖差が大きい。朝日が昇るのが4時過ぎと早い。今年の雪解けは一気に来た。土壌の解凍も早く、畑農家のトラクター耕起作業がそれにつられて1週間も早くは入れた。その起こした畑に春の突風が吹き荒れる。舞い上がった土煙が青空を覆いつくす。車の先が見えないブラックアウトだ。道路の各所で追突事故が発生。これが十勝の春の風物詩、常態化してきた。原因に防風林の伐採や土壌風化がある。先人が春先の強風(昔は馬糞風と言っていた)から植えた畑の作物を守るために、カラマツを畑の境界線ごとに植林した。それが十勝の風景であった。農業機械の大型化につれ、これが邪魔になり伐採。半分以上がなくなっている。その結果・・・  
5月の連休明けには、町営牧場の放牧が始まる。これから準備だ。



## 活動のお知らせ

6/11(土) 第23回総会&amp;飼養技術研修会 13:00~16:30

場所:新得町 北海道畜産試験場 3階大会議室 ZOOM参加も可能

・e-ビーフ牧場(北の牧場舎)の飼養・肉質分析…日本獣医生命科学大 動物栄養学教室 柴田昌宏教授  
・黒毛和牛ハイモイスチャーシェルクーン給与法…畜産試験場 糟谷氏

11/10(木) 第19回資源循環型肉牛生産シンポジウム2022 13:00~ とかちプラザ2階 視聴覚室

## NEWSばか読み

- 人材呼び込みに自然栽培研修や半農半X(エックス)体験  
4/1:農業の可能性
- 食品値上げ店頭9割で物流コスト高4/1:庶民生活じわり
- 生分解性マルチ面積が10年で倍1万2千ha(全体仕様の9%)  
4/2:まだ普及至らず
- 21年十勝畜産統計 生乳生産量6.5%増 搾乳牛24万6千頭  
4/4:集中化
- 北海道廃用牛相場 昨対32%の下げ相場 増産抑制が顕著4/5:変動期
- 和牛子牛相場3月横ばい 飼料高の危機感4/5:影響がじわり
- 22年度加工原料乳補助金対象345万t 4/7:
- JA全農 子実コーン24年度事業化に向け供給までの実証開始  
4/9:流れが国産
- 米国 日本産牛肉が輸入関税大幅上げ ブラジル産急増で低減枠減4/9:
- 神戸牛で、ブランド牛革レザー製品化推進4/9:皮代ゼロ解消
- JA空知・江別製粉 子実コーンの食料化に着手  
4/12:取り組み開始を賞賛
- 徳島 農業法人中心で農福連携の事業所設立 周年作業化  
4/13:人材開発活用
- 日生協21年 冷凍食品の供給量が過去最高の584億円  
4/13:家庭内消費の定着化
- 日立ソリューションズ・森永 飼料タンクの残量をICT使い遠隔監視  
4/14:できるでしょう
- 総務省 21年総人口が64万人減 東京26年ぶりにマイナス  
4/16:減少期に

- 環境省 20年温室効果ガス排出5.1%減4/16:コロナ効果
- 大豆輸入が一層不安定に 戦火で高騰、物流混乱4/18:穀物危機
- 食料安全保証財団 設立 食料に自給の重要性を発信4/19:やっと
- 農林水産省 温暖化緩和技術で意向調査 46%堆肥使わず4/21:根本
- 21年貿易赤字5.3兆円赤字 2年ぶり 原油高円安響く4/21:国力低下
- 22年冷凍食品製造量 業務用を家庭用が上回る  
4/21:家庭内消費構造変化
- 食肉格付協会 豚枝肉取引規格を26年ぶりに改定 3kgアップ  
4/22:
- 配合飼料2月18%高8万3千円 4/22:どうなるコスト
- トウモロコシ国際相場が最高値 ウクライナ危機、ガソリン代替  
4/22:どうする
- みどり戦略法案が参院で全会一位で成立4/23:これからスタート
- 総務省 3月食料品3.4%上昇 エネルギー高騰が影響4/23:
- 海外で日本コメ使用のおにぎりや弁当販売が拡大4/24:使いやすく
- 有機の里づくり県連絡協(ちばだん)が有機地域ブランド「ちなびお」  
立ち上げ4/24:地域全体で取り組み
- 近畿大 子牛で採血し枝肉成績をAI分析技術を開発  
4/25:その子の将来決まる
- JA宮城 子実コーンで和牛生産 国産飼料肥育でブランド化  
4/26:すすむ
- 特別措置法で土地所有者不明の利用法が拡大 再エネ施設等  
4/28:
- エコデザイン 平飼たまごに認証制度開始4/29:保証制度の拡充
- 21年生乳生産3年連続増産 北海道3.2%増 集中化4/30:
- 国連 陸地の4割が土壌危機に 農畜産拡大で砂漠化4/30:

## 東京直近NEWS (4/29 Shi-REPORT)

## ホルス

相場上げ基調にて推移。  
ホルスの取扱い減と輸入アイテムの代替需要として引合強く、GW前の手当て買いでさらに引合増。  
部位的にはロイン、赤身満遍なく需要強く余剰部位なしの状況。  
特にバラ系とロインについてはGW前ヒートしている状況。  
定期販売先以外に提案できるアイテムが無いのが実情。  
但し、末端販売先もGW前は決して実需で盛況では無いため、GW期間の販売動向次第で連休明けの荷動きは左右されるか。

## 経産牛

経産牛相場はパーツグレードは上げ基調。  
バラ関係、赤身ポーション、ロイン関係の引き合いは強い。  
冷凍原料は輸入アイテムの不足から問合せは増加しており、加工、外食向け原料としてバラを中心に赤身モモの問合せ。  
ヒレは既に完売状況で冷凍在庫もなし。  
挽き材については輸入コスト増から需要減の様子も、一定需要は維持するが輸入が高値推移により、国産へのシフトも一部ではあり。

## 1. 畜産技術803号(2022.4)

## 1) 研究レポート(1) 和牛肉における脂肪質と食味性の関係-2(入江正和、家改セ)

食肉の風味に關係する物質は多数で熟成や加熱調理によりその種類は更に増します。従って量の多寡と重要性とは一致しません。前号でも述べましたが次の肉質の改良は脂肪の質とされており、食肉の風味や呈味、匂いなどは分解された遊離脂肪酸特にオレイン酸、リノール酸など長鎖の遊離脂肪酸が舌の味細胞に受容体があることが示されています。黒毛和種牛では脂肪交雜の育種改良の過程で筋肉内脂肪含量が50%を超えるものも現れ、和牛肉の脂肪質の重要性を考える必要があります。

## 2. 肉用牛研究会報112号(2022.2)

## 2) 肉用牛のと畜処理時における血斑発生要因の検討(大谷新太郎他、家改セ兵庫)

わが国の肉用牛のと畜処理では打額・氣絶後直ちに横臥放血ですが、対米輸出食肉ではその取扱要項で懸垂放血が求められています。後者は牛体への血液汚染を防ぐ目的ですが失神(スタンニング)から放血(スティッキング)までの時間が長くなる問題があります。供試黒毛和種牛で50.8±12.9秒でした。血斑は放血不全よりも毛細血管の破裂によるものがあり、と畜方式だけで抑制は出来ず、家畜のストレス軽減など生体要因も考慮する必要があります。

## 3) 黒毛和種子牛強化哺育時の人工乳摂取量増加のための代用乳・人工乳給与プログラム(磯崎良寛他、福岡県農林総試)

黒毛和種子牛に低脂肪高タンパク質(TDN108%、CP28%、EE18%)の代用乳(液状)で5週齢まで強化哺育し、以後12週齢迄

は人工乳(TDN72%、CP25%、固形物)を増給しました。これまでに強化哺育により人工乳摂取量が低下傾向があるという報告がありましたが、このプログラムで哺育期の人工乳摂取量低下を防ぐことが可能と思われました。

## 3. 日畜会報93巻1号,(2022.2)

## 1) 黒毛和種雄牛の精液性状形質における若齢時および成熟時の遺伝率およびそれら間の遺伝相関(安達久見他、帯畜大)

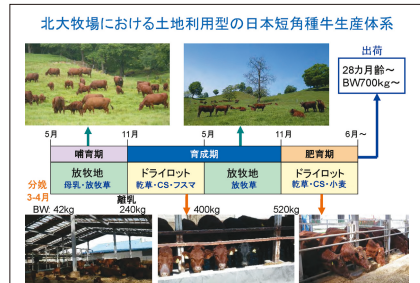
肉用牛の殆どは凍結精液による人工授精で生産され、精子の活力指数など精液性状形質で遺伝的改良がなされています。ジェネティクス北海道の所有する黒毛和種雄牛の採精記録と血縁情報から若齢期(10-47ヵ月齢)と成熟時(48-120ヵ月齢)に分けた精液性状形質の遺伝率、遺伝相関を推定しました。遺伝率推定値は文献値と近似し、遺伝相関推定値は中程度であり、若齢期と成熟時の精液性状形質を異なる形質として遺伝的改良が可能に思われます。

## 2) 十勝和牛における受胎率および初産分娩月齢に対する遺伝および環境の影響(阿部紗奈他、帯畜大)

黒毛和種牛の産肉形質は飼養管理技術の発展や遺伝的改良により向上しましたが初回授精受胎率は1989年以降低下しています。十勝管内の2016-2021年の授精・分娩データ、血統情報を素に線形アニマルモデルを用いて遺伝的パラメータを推定しました。初回授精受胎率は61.7%、初産分娩月齢は25.2±3.6ヵ月で、遺伝率の推定値は初回授精受胎率0.06±0.05、初産分娩月齢0.14±0.09でした。

## 資源循環型肉牛生産シンポジウム 2021

話題提供1.(生産者)「北大静内研究牧場の持続可能な畜産を目指して」2回シリーズ②回  
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏ステーション 静内研究牧場 牧場長  
持続的生物生産領域 生物生産体系分野 准教授 河合 正人氏

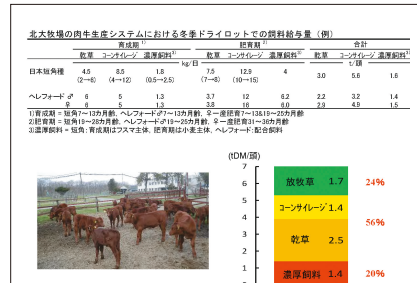


5) 播種: チモシー、オーチャードグラス、イタリアンライグラスなどイネ科牧草7種と、アルサイクロローバなどマメ科牧草3種の計10種 37.5kg/haを人力散布した。播種量は発芽率を考慮して耕起方式基準量の50%増、播種時期は第1回放牧開始の前日と原則とした。

6) 重放牧: 播種翌日から平均体重265kg(12.3ヵ月齢)のホルスタイン種去勢牛13頭を、牧区内の可食草をほとんど食べつくすよう重放牧した(約2ヵ月間隔で毎年2～3回放牧)。

|                          | 初年度 | 2年度 | 3年度 | 4年度 |
|--------------------------|-----|-----|-----|-----|
| 出現強度 (%)                 | 1   | 76  | 100 | 100 |
| 出現強度 (%)                 | 96  | 86  | 51  | 31  |
| 出現草量数                    | 52  | 42  | 26  | 8   |
| 風乾重量 (g/m <sup>2</sup> ) | 0   | 88  | 164 | 182 |
| (g/m <sup>2</sup> )      | 189 | 114 | 33  | 8   |
| 牧草化率(%)                  | 0   | 44  | 83  | 96  |
| 牧草力(kg/ha)*              | 110 | 192 | 424 |     |
| 増体量(kg/ha)               | 75  | 216 | 470 |     |

\*体重500kgの成年雌牛1頭あたり放牧頭数70頭要求量より算出



☆乳直後の増体が停滞  
「乳量が多い」日本短角種の特徴  
→ 母子放牧期間中(生後6-8ヵ月間)の増体が高い  
→ 子牛の栄養摂取における乳への依存度が高く「離乳ショック」大? 乳から固形飼料へ、放牧草から乾草とトウモロコシサイラージュへ  
→ 子牛の放牧草への依存度を高める必要性?  
・母子群は夏以降、低草量の放牧地で飼養して母子の放牧草摂取量を制限して乳量を抑える  
・離乳時期を1-2ヵ月早くルーメン発達を促す

☆2夏目放牧時の増体にばらつき(個体ごと、年ごと)  
この時期の増体が後の肉質に影響する(?)  
→ 育成期は夏以降、高草量の放牧地で飼養して放牧草摂取量を高く保つことが可能な飼養条件を整える